

診療科	曜日	月	火	水	木	金	備考
総合内科	初診	北浦 剛	山本 哲夫	酒井 浩光	富田 桂公	森 正剛	
消化器内科		香田 正晴	藤井 政至	山本 哲夫	香田 正晴	山本 哲夫	
		上田 直樹		上田 直樹			
呼吸器内科		富田 桂公	富田 桂公	山下ひとみ	酒井 浩光	北浦 剛	
	専門外来再診のみ		交替医(肺がん)		北浦 剛	山下ひとみ	
血液・腫瘍内科		但馬 史人	但馬 史人	但馬 史人	但馬 史人	但馬 史人	
	専門外来				フォローアップ		[診療時間] 13時~14時
循環器内科		森 正剛	福木 昌治	福木 昌治	森 正剛	福木 昌治	
	専門外来	ペースメーカー					[診療時間] 13時~
糖尿病・代謝内科		木村 真理	木村 真理	木村 真理	木村 真理	交替医(第3週のみ)	
腎臓内科				福永 昇平			紹介及び予約のみ
神経内科						田中健一郎	紹介及び予約のみ
緩和ケア内科		松永 佳子			松永 佳子		診療時間:14時~16時 予約のみ
小児科	午前	林原 博	佐々木佳裕	坪内 祥子	林原 博	佐々木佳裕	
	午後	佐々木佳裕	坪内 祥子		坪内 祥子	坪内 祥子	[診療時間] 15時~17時
	専門外来		佐々木佳裕 [アレルギー]	交替医 [乳児健診]  交替医 [予防接種]	[特殊検査]	林原 博 [アレルギー] [小児腎・膠原病]	[アレルギー] 毎週火・金曜日 [診療時間] 14時~17時 [乳児健診] 毎週水曜日 [診療時間] 13時~14時 [予防接種] 毎週水曜日 [診療時間] 14時~16時30分 [小児腎・膠原病] 毎週金曜日 [診療時間] 14時~17時
消化器・一般外科		奈賀 卓司	杉谷 篤	久光 和則	杉谷 篤	山本 修	
	専門外来	杉谷 篤		杉谷 篤		杉谷 篤	腎移植・脾移植
胸部・血管外科		鈴木 喜雅	鈴木 喜雅	鈴木 喜雅	(鈴木 喜雅)	鈴木 喜雅	
	専門外来	若原 誠	若原 誠	若原 誠		若原 誠	リンパ浮腫 フットケア 予約制
整形外科		南崎 剛	大槻 亮二	土海 敏幸	南崎 剛	吉川 尚秀	
		土海 敏幸	吉川 尚秀		大槻 亮二		
	専門外来	南崎 剛			南崎 剛		骨軟部腫瘍
	専門外来				大槻 亮二		関節
	専門外来		吉川 尚秀				リウマチ
泌尿器科		高橋 千寛		小林 直人	高橋 千寛	小林 直人	
放射線科		交替医	杉原 修司	杉原 修司	杉原 修司	交替医	
放射線治療			田原 誉敏				完全予約制
心臓血管外科						交替医	第2週のみ
婦人科		交替医				交替医	
眼科			大谷 史江				
耳鼻咽喉科		山本 祐子		山本 祐子		山本 祐子	
歯科		中本 紀道		土井理恵子		奈良井 節	

米子医療センターマガジン あーかす #05 アーカス September 2014 平成26年10月10日/初刊発行 平成26年9月19日/発行 発行:米子医療センター 〒683-0006 鳥取県米子市車尾4丁目17番1号 デザイン・印刷/合同印刷株式会社 無料0円

# あーかす

ご自由にお持ち下さい

# ¥0

米子医療センターマガジン #05  
September 2014

心と言葉を虹の架け橋にのせ “伝える” “つながる” 情報誌

## 新病院の診療開始 第3期中期計画…地域の医療需要を見据えて

## 新病院いよいよ始動!

新病院のご紹介

手術室・中央材料室

地域医療連携室・がん相談支援センター

地域医療連携室からのお知らせ

旧病院でお宝発見?

新病院効果? ~医学生を多く見ます~

初期臨床研修医 紹介

Enjoy! 学生 LIFE

## contents

- 03 新病院の診療開始  
第3期中期計画…地域の医療需要を見据えて
- 06 新病院いよいよ始動!
- 08 新病院のご紹介  
手術室・中央材料室
- 10 新病院のご紹介  
地域医療連携室・  
がん相談支援センター
- 11 地域医療連携室からのお知らせ
- 12 旧病院でお宝発見?
- 13 新病院効果? ~医学生を多く見ます~
- 14 初期臨床研修医 紹介
- 15 Enjoy! 学生 LIFE



9月 今月の一枚

政木 昭夫 (米子市)

寒くなると空気も澄んで星も輝きを増してきます。新月の頃、暗くなるのを待って南に向かい20分ばかりシャッターを開け、長時間露光で撮ったものです。



患者さまと職員が向き合った姿で、患者さま中心の医療提供とYONAGO(米子)の「Y」、MEDICAL(医療)の「M」、CENTER(センター)の「C」の文字を、まごころ、信頼、安心、良質の医療をイメージする「ハート」に組み合わせ「米子医療センター」の明るく元気な姿を表しています。

## あーかす

あーかす(Arcus)とはラテン語で「虹」を意味し、英語のArc(弓、橋)+Us(私たち)で「私たちが地域の架け橋になる」という意志を込めてタイトルとしました。私たちの持ついろいろな表情を、地域の方々や医療関係者に広く知って頂き、絆を更に深める情報を掲載してまいります。

# 新病院の診療開始

## 第3期中期計画 ……地域の医療需要を見据えて



院長 濱副隆一

経営改善計画とともに

米子医療センターの新病院が完成し、平成26年7月22日より新しい病院で診療を開始いたしました。振り返りますと、病院建て替え整備の火種は、当院が再生プラン病院に指定された平成19年にさかのぼり、その当時の経営改善計画にしっかりと盛り込まれています。そこで、再生プランを達成したと同時に、建て替え整備計画の策定を開始し、整備計画の本部承認を得て、基本設計と実施設計へと進み、起工から完成までの建築工事、電子カルテの選定から導入までの作業、そして最後に新病院への移転作業へと駒を進めてきました。いずれの段階にも幾多の難問が待ち構えていましたが、職員の皆様の真摯な取り組みにより、課題をひとつひとつ踏破して頂きました。心より感謝を申し上げます次第です。



病院の建物は耐用年数が39年とされ、これを超えた病院では、高度な専門医療を行うのに支障があるだけでなく、診療業務を効率化したり、患者様の療養環境を改善するのが難しくなります。一般に、公立病院は税金で建ち、民間病院はほぼ借金で建てられると言われますが、国立病院機構の場合も、国立の冠は名ばかりで、国からの運営交付金は全くなく、建て替えに要した費用は全額返済していくことになります。したがって、これからも、地域の医療需要に適切に対応し、健全経営に努めていくことが求められます。

組織見直しによる影響とは

さて、独立行政法人（独法）の組織見直しについてですが、今年の通常国会で独法通則法が改正され、国立病院機構は中期目標管理法に分類されることになりました。これによって、特定独法から非特定独法となり、職員の身分が非公務員化されることが決まりました。病院運営の面では、国家公務員法の縛りが緩和されることによって、より自由度の高い病院運営ができることを歓迎しています。しかし、基礎年金の国負担分が病院負担になることや、非公務員化に伴う労働保険料の負担が加わるなど、年間8,000万円強の費用が増える見込みで、病院経営に及ぼす影響は大きいと思われる。

また、国立病院機構は発足11年目を迎え、第3期中期計画に入りました。時期同じく今国会で、医療法が改正され、地域医療のあり方や方向性が大きく変わろうとしています。その背景には確実に進行する人口減少と、急速に進む少子高齢化があります。確実に進行する人口減少は、将来的に医療需要が先細りすることを示していますし、若年者人口の減少は急性期医療ニーズが縮小していくことを意味しています。このような外部環境の変化を考慮し、米子医療センターの第3期中期目標を下のように入りました。

米子医療センターは、第3期中期期間の幕開けに、新病院という大きな財産を得ました。これを大いに活用して、時代や地域のニーズに合った医療を展開し、地域に貢献していこうと思えます。職員の皆様のますますの活躍を心から期待しています。よろしくお祈りします。



第3期中期目標

1. 入院を中心とした診療

病院が機能別に集約される時代を迎え、自院の立ち位置を地域に示すことが重要である。入院に重点を置いた医療を提供するとともに、外来は専門化を図ることにより紹介率・逆紹介率を高め、地域の医療機関とともに発展していく。

2. 地域医療ネットワークの構築

地域の医療機関と密接に連携し、圏域内の医療の質的向上に貢献し、地域の医療をリードする。とくに、緩和医療については、在宅医療機関と協調し、地域全体での看取り力を高めていく。

3. 医療需要の変化に柔軟に対応

今後、大きく変動する地域の医療需要を見据え、これに見合う病院機能を選択し、事業の継続を図る。

4. 人材育成・教育研修機能の強化

職員の活性化と人材の育成は、病院の成長にとって非常に重要である。専門性の高い医療人を育成するとともに、医療サービスの提供に必要な基本的能力や技法の習得・向上を図る。

新病院のご案内



展望ラウンジ (8F)



手術室 (5F)



化学療法センター (4F)



腎センター (2F)

手術部門	5F	外科系急性期病棟 HCU
がん治療 化学療法センター	4F	幹細胞移植センター
管理部門	3F	内科・小児科病棟
腎センター リハビリ部門	2F	内科系診療科 外科系診療科 歯科・口腔外科
検査部門 採血・点滴・超音波検査 脳波筋電図検査・心電図検査 呼吸機能検査		
がん相談支援センター 地域医療連携室	1F	小児科 放射線科
総合案内 薬剤部門 放射線部門 MRI・CT・リニアック・RI・透視 結石破砕・一般造影・血管造影 内視鏡部門 救急部門 売店・食堂・ATM		



特別個室 A (6・7F)



HCU (5F)



幹細胞移植センター 無菌室 (4F)



外来ホール (2F)



エントランス (1F)

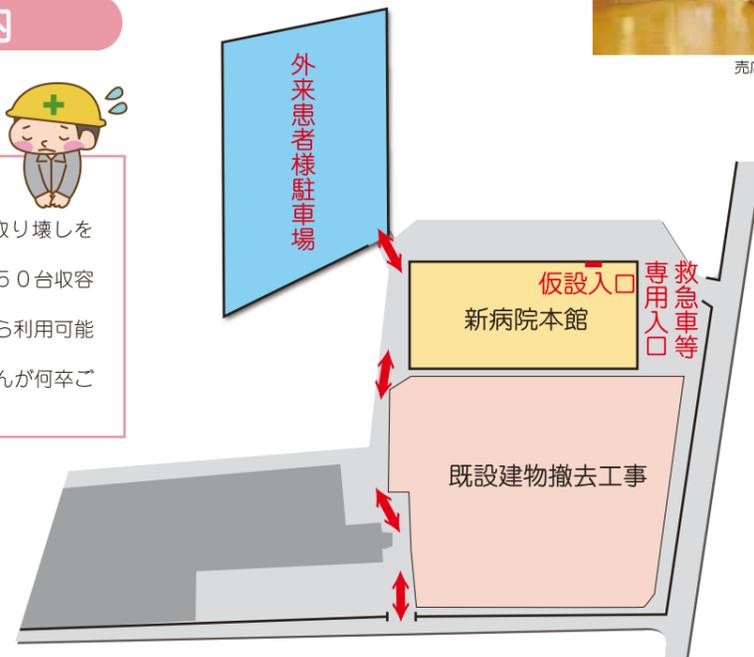


売店・食堂 (1F)

専用駐車場ののご案内

引き続きの工事について

新病院は完成しましたが、現在古い病院の取り壊しを行っております。その後、外溝工事を経て、旧病院跡地に約250台収容の外来者用駐車場が完成します。工期は8ヶ月となっており平成27年4月から利用可能となる予定です。皆様に御不便をお掛けして申し訳ございませんが何卒ご理解をお願いいたします。



# 新病院いよいよ始動!



副院長 山本哲夫

## 移転も無事終了しました

新病院への移転を7月の海の日を含む3連休で行い、この間は救急を含む外来診療は行わない。そして、7月22日より新病院で診療を開始するという方針を決定した今年2月には、まだまだ先のことと思っていた引っ越しでしたが、過ぎてみればあっという間に「なせば成る」という言葉どおり、無事に終えることができました。

6月22日の完成記念式を終えると直ぐに引っ越しとなりました。6月末には各部署の机、椅子、書類棚等には行先別のシールが張られ、私の部屋もダンボールで埋まりました。私自身は7月3日(木)に一足先に引っ越しを行い、その後事務部門、看

護部長室、院長室が4日(金)、医局が5、6日(土、日)と、新病院に部門別に移動となりました。そして、12、13日(土、日)で手術室が引っ越し、以後は手術対象でない患者中心という診療体制をとり、18日金曜日正午をもって旧病院での外来診療が終了しました。そして、金曜日午後から、検査、薬剤部、リハビリ室等の最後まで旧病院の診療に関わっていた部門の引っ越しが始まりました。大きな検査室の器械、薬剤部の大量の薬、分包機、クリーンベンチ等、そして多くの器具が2日半かけて移転しました。

そして、7月21日、梅雨が明け、朝から太陽が照りつける中、



エレベーターホールに集合!



入念に打ち合わせを行いました



引っ越しスタッフも準備万端



入院患者様の移動開始です

病院移転最大のイベントである入院患者さんの大移動が始まりました。看護部が満を持して作成した時間割通りの8時45分に、ベッドに横になった状態の入院患者さんが2名の看護師に搬送され旧病院1階エレベーターホールに到着しました。患者さんの荷物を持った日本通運の引っ越しスタッフがこれに加わり、仮設通路を通り真新しい新病院正面玄関へと入って行きました。この旧病院6階から新病院6階への移動を皮切りに、当日入院中であった合計90名の患者さんの移動が整然と行われました。

新病院のエレベーター待ちで渋滞を生じたため、重症の患者さんが渋滞に巻き込まれないように時間調整を要する場面もありましたが、重症度、呼吸状態、輸液ポンプ、酸素の有無等をきちんと事前に把握し、更に重症の患者さんには各主治医が付き添っていたこともあり、大きな混乱もなく、2時間半という



仮設通路を通過し、移動します

予定より約30分短い時間で終了しました。当日朝に容体の悪化した患者さんもおられましたが、病院スタッフの協力で無事に引っ越しができました。

全体計画を立案した事務部門、詳細な患者移送計画を作成した看護部門をはじめとする各部門、そして引っ越し作業にご協力いただいた全職員に感謝します。



主治医の付き添いも必要です



無事、新病棟へ移りました

## 真新しい病院でのセレモニー

7月22日の朝8時前、新病院での診療開始を記念して、新玄関ホールで診療開始セレモニーが行われました。

前日引っ越しを終え、各所に張ってあった保護材が夜のうちに撤去され、真新しいピカピカの床、きれいな壁、高い天井と明るい照明の中、つい4日前まで診療していた旧病院とは全く違う広々とした玄関ホールで、演副院長の診療開始記念の挨拶に引き続き、院長、私と杉谷副院長、南崎統括診療部長、矢後事務部長、東森看護部長によるテープカットが行われました。

その後、予約患者さんの再診受付が開始となり、8時30分から、新病院での外来診療が開始されました。外来部門は必要な物品がきちんと配置され、診察室、待合も新しく、そして広く、とても落ち着いた環境で、電子カルテへの緊張の中、新たな思いで私自身外来診療を始めることができました。



前日入院患者の引っ越し後も、遅くまで片づけをし、診療開始へ向け準備を行った各部門の方々に感謝します。そして、この素晴らしい診療環境を活用し、今まで以上に地域の方々に頼りにされる医療機関になるよう職員一丸となって日々の診療に励んでいきたいと思っております。



## 新病院のご紹介

# 手術室・中央材料室

麻酔科 診療部長 廣澤 壽一

ような状況でした。また、紙カルテ運用で麻酔記録は手書きでした。電子カルテに慣れている大学病院の麻酔科医たちが来ると、昭和の古き時代に戻った感があったのではないのでしょうか。ただ、歳をとっている私にとっては、手書きの麻酔記録には慣れていますが、狭くても手を伸ばせば何でも取れる手術室も結構気に入っていました。

新しい手術室は、それはそれは気持ちのいいものです。もちろん更衣室もスタッフ休憩室も別々です。手術室入室時も、更衣室入室時もキーロックを解除して入ります。24時間空調が作動し、手術室・中央材料室(中材)部門は色々な面で機能が充実しました。各手術室は広く、新しいLED無影灯は明るく、熱も感じないです。手術野モニターの画面も、外科医の身近で見

ことができますし、画像の編集なども簡単に行えます。壁もタイルではなく、きれいに整理できる戸棚や温・冷蔵庫もあります。中材には、いろいろな医療器具の洗浄・乾燥・滅菌・保管などのために新しい機器が導入され、感染制御の面でも、手術室だけでなく病院全体の大事な部門を担っています。麻酔関連機器も充実し、麻酔記録も電子カルテ入力となりました。ただ、まだまだ電子カルテに不慣れな点や、運用上の整備等も多々あって調整中です。

手術室が新しくなってハード面の充実には雲泥の差がありますが、大切なのはやはりソフト面の機能維持・向上です。これからも各スタッフがいろいろな勉強をして知識や技術を向上させ、知恵を出し合って、チーム医療で患者様や家族を支え、安心して手術・麻酔を受けていただくことが出来るよう取り組んでいきます。

## チーム医療で患者様やご家族を支えます

旧手術室

新手術室

平成26年7月22日(火)より、病院の新築に伴い、新しい手術室も稼働を開始しました。旧手術室は当地に建てられてからの古い施設で、クリーンルームの新設に伴い、一部は増改築をされていました。しかしハード面の多くは時代遅れの設備で、経験豊富なスタッフの尽力によりなんとかソフト面でカバーしているような状況で、スタッフにはもちろん患者様にも不便をおかけしていました。国立病院時代の2000年に、手術室の改修計画と予算が一旦は通りましたが、三宅島が6月に噴火したため、当院の改修予算は全て三宅島の復興に充てられ、新しい手術室は幻と消えたと前院長よりお聞きしました。

先ず旧病院での前時代的な手術室を紹介します。男性更衣室は通路も兼ねており、一応ロッカーの並びで更衣自体は見えないようにしましたが、それでも気になる女性・男性スタッフもいます。また女性更衣室はスタッフ休憩室も兼ねており、朝は男性入室厳禁でしたが、それ以外の時も男性が入室するときは、3度の「入ります、入ります、入ります」の声かけとノックが必要でした。夕方、うっかり忘れて入室すると女性が着替えていてプーイングの嵐ということも……。3室あった各手術室のドアは、クリーンルームを除いて木製の押し開き戸で、壁はタイル敷き、まるで銭湯に入ったような感じで、もちろん湯船はなく、手術台が中心にどっしりと構えていました。しかも空調は全室が一斉の調整方式となっていたため、1室が寒くなると2室も寒い、2室の温度を上げると1室も上がってしまい、外科医からクレームがきます。しかも夏でも冬でもクーラー?というような利き具合で、スタッフは体調管理のため、衣服で調整します。またほとんど裸同然の患者様には、体温保持のためあらゆる加温器を駆使して体温維持に努めなければいけない状況でした。部屋も狭く、色々な手術器械や検査機器が入るともう麻酔科医は身動きが取れない





## 新病院のご紹介

# 地域医療連携室・ がん相談支援センター

地域医療連携室係長 水谷ふみ江

こんにちは、「よろず相談窓口」  
地域医療連携室・がん相談支援センターです。

1階初診受付横  
で、FAX紹介患者  
様をお待ちして  
おります。制服も  
新しくなりました。



新しくなった、地域医療連携室をご紹介します。

まず、地域医療連携室の場所ですが、旧病院では「玄関つきあたりの木の看板が目印です。」と皆さまに案内していましたが、新病院では、「2階検査室向かいです」とまだまだ患者様・地域の皆さま又は職員ともに認知度が低いのでこの場をお借りしてアピールしたいと思います。

地域医療連携室は、患者様がスムーズに安心して病院を受診して頂くことができるよう、地域の医療機関との連携を深め、患者様と地域の医療機関を結ぶ窓口として下記の業務を行っています。地域医療連携室は、地域医療連携室長の富田診療部長、経営企画室長、専門職、地域医療連携室職員5名（看護師長1名 MSW1名 看護師1名 事務員2名）です。

がん相談には、がん相談職員をはじめ、がん看護認定看護師、就労相談には、社会保険労務士があたります。

地域医療連携室の運営には、皆様の御理解と御協力が不可欠です。「地域の命を支える」ために、皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。

「よろず相談窓口」として、お困りごとがありましたら、ぜひお気軽にお立ち寄り下さい。



### 業務内容の紹介

- FAXによる、紹介患者事前診療予約・放射線検査予約・栄養指導予約  
前日までに地域の開業医様より診療・放射線科検査（CT・MRIなど）栄養指導の予約をFAXでご紹介いただくと、20分以内に予約を取りお返事をするサービスを行っています。また、これをご利用されると受診当日は初診受付も待ち時間が少なく、診察時間もスムーズに行えるように地連・医事・外来部門ともに連携を取って診療していきます。
- 紹介・逆紹介管理  
地域支援病院として、紹介状や逆紹介の管理を行っています。
- セカンドオピニオン外来窓口  
セカンドオピニオン外来に関する相談や手続きを行っています。
- 開放病床運営推進  
病棟に各1床「開放病床」という、医療機関との共同診療が行えるベッドがあるのを御存知でしょうか？入院中も継続した医療が行えるよう登録した開業医が主治医と共同で診療に当たれる病床があります。開業医の先生方に積極的にご利用いただき、在宅医療連携に結びつけるよう推進していきます。
- 医療相談窓口  
医療費・介護保険・身体障害者手帳手続きなど、入院・外来治療のお

- 金や制度にかかわる説明や手続きのお手伝いをさせていただきます。
- 在宅・退院支援  
患者様の在宅療養に関する相談、療養場所（転院・施設入所）にかかわる相談など、患者様やご家族さまが退院後の生活を安心して過ごせるようなお手伝いをしています。
- 地域がん拠点病院「がん相談支援センター」併設  
がん相談支援センターとして、院内・院外のがん患者さまのさまざまな相談に対応しています。当院のがん相談員やがん認定看護師が相談の内容により出来る限り対応していきます。
- 院内図書室  
新病院には、患者様の図書室を整備しました。入院中や外来の待ち時間にご利用いただけるように開放しております。がんに関する書籍や闘病記が主ですが、図書の整備についても順次行っていきます。
- 講演・講座・研修の運営  
市民公開講座、がんフォーラム、がん医療講演会、在宅緩和実地研修などの企画運営を行い、地域住民や医療従事者への研修を行っています。

地域医療連携室からのお知らせ

市民公開講座

米子医療センター がん医療講演会

米子医療センター

# 緩和ケア病棟 開設記念講演会

参加無料

日時：平成26年 **10月4日**（土）  
午後2:00～4:00

会場：**米子市文化ホール**  
メインホール

I 講演 午後2:00～2:30

米子医療センター  
緩和ケア病棟はこんなところです

緩和ケア内科医長 松永 佳子  
緩和ケア病棟看護師長 三谷 順子

II 特別講演 午後2:30～4:00

## 現代医療と ホスピス緩和ケア



淀川キリスト教病院  
金城学院 **柏木 哲夫** 先生



- 主催：(独)国立病院機構 米子医療センター
- 後援：鳥取県・米子市・鳥取県医師会・鳥取県薬剤師会  
鳥取県看護協会・鳥取県西部医師会

## 旧病院でお宝発見？

事務部長  
矢後万里男



- ⑥ 移転更新築工事関係者名簿
- ⑦ 工事関係の写真
- ⑧ 昭和35年（1961年）の記念誌、創立20周年記念誌
- ⑨ 昭和45年（1970年）11月6日（金曜日）の日本海新聞・毎日新聞
- ⑩ 観光パンフレット
- ⑪ 概況書
- ⑫ 貨幣

建物平面図では玄関に入って右手に内科・産婦人科・泌尿器科、左手に外科・整形外科・物療・小児科・眼科・耳鼻科・歯科と各診察室が配置され、2階に臨床検査科、院長室、事務室、医局が配置されていました。旧病院と重ねてみると建築当初と随分様変わりしており40年数年という時を感じます。また、昭和35年当時の病院の様子や創立20周年の記念誌は病院には無かったもので、当時を知る貴重な資料となります。一部とはなりますが写真でお宝を見てください。



◀写真1



旧病院の玄関右側の壁に「定礎」と書かれた石がはめ込まれているのを見たことがありましたか（写真1）。この定礎の中からお宝発見です。

定礎とは、建築工事で礎石を据えること。工事を開始することをいいます。礎石とは、礎となる石のことであり、建造物の土台となって、柱などを支える石のことです。本来、住宅などを建てる際には、土台の石が必要であったため、定礎式は工事に取りかかるとき建物の安全を祈るために行われたものですが、建築様式の多様化に伴い、建築関係者や竣工年月日を記した定礎板を取付ける儀式に変化してきたものと新病院を施工した奥村組の現場所長三村氏より伺いました。

さてお宝ですが、定礎の内側に定礎箱があり開封すると中には、次の物が納められていました。

- ① 定礎名
- ② 病院沿革
- ③ 新病院の配置図・病棟図面・外来診療棟の図面
- ④ 国立米子病院創立後年譜
- ⑤ 職員名簿（昭和45年11月6日）

## 新病院効果？ ～医学生を多く見ます～

臨床研修室長 福木 昌治



最近当院で医学生さん（以下敬称略で学生）を見かけることが多くなったと思います。学生が来院される場合、大学、特に各医局からいわば強制的に当院で実習をさせられる場合と、希望あるいはマッチングで当院を希望して実習ないし見学に来られる場合があります。前者は当然として、後者が増えてきています。その要因はいろいろあるかと思えます。

1. 昨年度から研修医の募集が始まり、研修先として関心が高まった。
2. 日々の診療実績の積み重ねで評価が上がった。
3. 当院の特徴が理解され、興味を持ってもらえるようになった。
4. 県が地域医療のために斡旋している。
5. 新病院になった。
6. その他

昨年も以前より学生の来訪が増えてきていましたが、更に今年度は学生の来訪が多くなっています。私が把握している実習は大学の地域医療学講座の臨床実習などですが、これはマッチングで来訪されるので、当院での実習を希望される学生が増えてきているように思います。また、夏休みなどを利用した当院の見学も今年はぐっと増えてきています。鳥取大学の学生やまた他府県の大学で

当地での研修を希望している学生もいます。

これら学生の実習や見学に携わっていただいている指導医の先生方、身近な存在である研修医の先生方が熱心に情熱を持って指導していただいていると評判です。各先生方には大変お世話になっており、この場をお借りしてお礼申し上げます。このような形で繰り返し訪問いただいている学生さんには、病院が非常にきれいになったと喜んでいただいています。

今後の当院の発展のためには研修医の獲得が重要で、学生に当院での研修の利点などを積極的にアピールするとともに、良好な人間関係を築くために飲食をともにすることも重要と考えられます。県のリクルート制度があり、当地での研修を検討している学生の接待に関して飲食費などを県が負担してくれる場合もあります。しかし、リクルート制度での経費の申請が面倒なことと少額であるために、実際には自腹を切って学生と食事に行くことが多くなります。研修医獲得のために仕方ないと思いつつ、若い学生の食欲は旺盛で遠慮もないため、山本副院長、南崎統括診療部長、富田診療部長方と学生相手に焼肉などに行くと、かなりの出費を覚悟しないとイケない状態です。ただ、話は楽しく、また若いエネルギーをもらうとこちらも元気になるように思われます。

少子高齢化社会のなかで、研修医、学生はじめ若者たちの力で、当院も活気づくよう期待しています。





初期臨床研修医  
持田 浩志



初期臨床研修医  
矢部 成基

## 経験を大切に

米子医療センター研修医1年目の持田浩志（もちだひろし）と申します。出身は鳥根県松江市宍道町で高校は松江北高校、大学は鳥取大学です。趣味はカラオケで、POPSを中心に少しでも洋楽も歌えるようになりました。大学の時は大山家族、ESSに所属しておりました。

研修が4月より始まってはや5ヵ月、長いようであっという間に過ぎました。いろんなことに挑戦させていただいて、日々悪戦苦闘しながらも楽しく充実した時間を過ごさせていただいております。そんな中で最近強く思いますのは、一人ひとりの患者さん、一つひとつの経験を大切にすることが最も重要なことなのではないかということです。

当たり前かもしれませんが、毎日の業務の中でつい忘れがちだと痛感しています。また、そういった患者さんとの出会い、貴重な経験は病院関係者、地域の病院の先生方など、様々な方々の強力なサポートなしには得られないものであります。まだまだ若輩者で右も左も分かりませんが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



## 日々充実しています

この4月より米子医療センターでお世話になっております、初期臨床研修1年目の矢部成基（やべまさき）です。

出身は鳥取県の智頭町で趣味はアウトドアです。将来は麻酔科に進みたいと考えています。

医療センターでの研修医の受け入れは昨年度始まったばかりではありますが、学生時代の臨床実習で伺った際に、先生方に大変丁寧にご指導いただいたためここでの研修を希望しました。

初期研修ではおおよそ1ヶ月か2ヶ月ごとに様々な診療科を回っているためその度に覚えることがたくさんあり大変ですが、どの診療科に行っても先生方、看護師さん、技師さん達が大変丁寧に教えてくださって、日々新しい知識、手技を学び充実した研修生活を送っております。

まだ知識も経験も少なく何も出来ませんが、一生懸命研修させていただきます。2年間よろしくお願ひします。

## 力を合わせた式典～看護学校創立60周年記念式典・祝賀会

教育主事 橋本笑子



この8月2日、看護学校の創立60周年記念行事を、総勢240名の参加で、無事、終えることができました。記念式典では、特別講演や継愛の儀、地域の実習施設への感謝状贈呈が行われました。特別講演には、上智大学グリーンケア研究所特任所長、高木慶子先生をお迎えいたしました。高木先生のお話からも、学校の教育理念にある『人間愛』について、改めて考える機会となりました。人を大切に、命を大切に、慈しみのあたたかい心を持ち、互いに支え合うこと、この思いを胸に、継愛の儀に臨みました。

継愛の儀にあたり、『人間愛をつなぐ』をテーマに、先輩から後輩へと伝統が継承できたことに感謝し、60年間の写真を用いて作品を創りました。伝統をつなぐ決意を込め、在校生代表と同窓会会長様と共に、作品を看護学校へ贈呈いたしました。式典終了後の記念写真では、同窓生と元学校職員の方々の撮影風景は、微笑ましい限りでした。

祝賀会では、ご臨席くださいました皆様に感謝と楽しい時間を過ごしていただきたいと、2年生を中心に在校生が頑張りました。感謝の気持ちは、手作りのしおりに込め、メッセージも添えました。新校舎や懐かしい写真を動画で紹介しました。カリキュラムの変遷に伴う教育の変化を、行事や実習の話題と共に、元教育主事の先生方との語りの中で紹介いただきました。アトラクションでは、オカリナに挑戦し、ギターや打楽器、同窓生の看



60年間の写真から、創立60周年記念『人間愛をつなぐ』を創りました。校歌の歌詞 ♪～手をつなぎ進もう 看護の道を～♪ につながりました。

護部長様と共に演奏し、最後は、名司会者、管理課長様の掛け合いもと、参加者全員での大合唱となりました。

60周年を終え、実行委員長を中心に、在校生は協力し合い、同窓生の迫力に圧倒されつつ、そこにいれることを光栄に感じていました。そして、会場入り口に展示した作品を同窓生がご覧になり、喜んでおられる姿を目にし、達成感に満ちあふれていました。多大なご協力をくださいました同窓会、関係者の皆様へ感謝し、新たな一歩をあゆみ出したいと思っております。

